

テーマ: 『 地域の方々と共に自然と関わり、互いに助け合う気持ちを育てる環境教育 』

横浜市立 市場小学校

Tel. 045-581-2107 担当者: 坂東 由美



■実践内容:

・市場小学校では、4年生の横浜の時間と理科の学習で、緑のカーテンを設置し、その効果を調べるために教室の温度を調査した。緑のカーテンの設置してある教室とそうでない教室との温度を比較した結果、日中ではマイナス1～2度の効果があった。子どもたちも、涼しく暮らすための工夫を実感できた。秋には、ゴーヤや朝顔の種を収穫し、まち全体を涼しくするために来春には地域の方々に苗を配布する予定である。

・4年生が、地域の農家の方の協力を得て学級花壇に小松菜の種を植えた。育てた小松菜を収穫し、給食のメニューに取り入れ、全校で味わった。地産地消の魅力とその意義を実感することができた。その他にも、校庭のさくらんぼや筍も収穫し、全校で食べることもできた。今後は、交流学年の2年生に小松菜の作り方を教えて、一緒に育て収穫パーティーを開く。

■実践成果:

さまざまな実践により、環境への理解を深め自然に親しむことができた。植物を育てることを通して、自分たちの心も成長していることを実感できた。自分たちの生活環境の改善や食について問題意識をもつことで、より主体的に活動することができ、地域の方々から学んだことを発信する活動に発展した。

■実践ポイント:

これまでの環境教育年間計画を見直し、地域の教育力を積極的に組み込んだ。また、食育を一つの柱として校内でお米や野菜を育てることで、全校の児童に関心をもたせることができた。伝達や発信の活動では実物を提供することでより説得力が増し、次への意欲付けにつながった。